

幕張を日本のシリコンバレーに

(本稿は、11月1日付千葉日報に掲載されたものです)

(株)ちばぎん総合研究所
主任研究員 癸生川太郎

Invest Japan！—小泉首相は今年3月、欧米でこのキャッチフレーズを使ったテレビCMを流し、企業の日本への進出を呼びかけた。千葉県では6月、幕張など3か所が経済産業省の平成16年度「先進的対内直接投資推進事業」の対象に選ばれた。外資系企業にしてみれば、日本でどこに立地するかは自由であり、厳しく比較検討を行う。首都圏では東京は別格として、神奈川、埼玉両県とは東京からほぼ等距離にあるため、誘致における地域間競争は激しく、県の負う役割は非常に大きい。外資系企業誘致において遅れを取ることは許されない。

では、外資系企業は千葉県経済にとってどれだけ波及効果をもたらしているか。雇用面では、千葉県に本社を有する外資系企業だけでもすでに8,000人の雇用を生み出し、年々増加している(表参照)。どの国でも、一般に海外へ進出する企業は自国内で高い生産性、技術力などで競争を勝ち抜いた優良企業であることから、これらの企業との取引により地元経済も活性化される。県も、県にない産業を戦略的に誘致していることから、地元経済を破壊するような懸念は少なく、むしろ県の産業構造の多様化、高度化に寄与することになる。

千葉県に、地域間競争に打ち勝つための勝算はあるのだろうか。答えはイエス、千葉県は絶対的優位にあると言える。何とんでも空の玄関・成田国際空港を持ち、東京という巨大マーケットに隣接しているのは、他県にはない強力な武器である。特に「幕張」は成田と東京のほぼ中間にあり、どちらのメリットも享受できる。成田に着いたビジネスマンはその日からフルに働ける。地価、オフィス賃料も東京、横浜に比べればはるかに安い。職住近接も魅力だ。インターネット上でビジネスが展開される現在、本社の機能はスリム化され、限定的なものになりつつある。IT企業でその傾向が強いが、一方で知的労働にふさわしい快適な職場環境が求められている。幕張を訪れた外国人は皆、海に面した清潔感漂うビル街の美しさに驚く。

幕張にはすでに多くの外資系企業が進出しているが、今後は官民あげて外資系企業誘致に重点を置いた、日本のシリコンバレーを目指していくべきと考える。そのために次の三点を提案したい。

第一は、情報発信の強化である。県自ら海外へ出向き企業誘致の実践活動を活発に行う必要がある。残念ながら「幕張」の国際的な知名度は低く、まだ横浜などに及ばない（※インターネット上のヒット件数〈米英独仏、Googleにて検索〉は横浜の約15分の1）。人も企業も、名前も知らない街へは来にくく、外資系企業誘致には国際的な知名度の向上が欠かせない。あわせて、姉妹県・州（米・ウィスコンシン州、ブラジル・パラ州のみ）を増やし、市民レベルでの交流を広げることも必要である。

第二は、平成15年1月に開設した「外資系企業スタートアップセンター」を大幅に拡充することである。同センターは幕張の高層ビルにある、外資系企業を対象とした格安の賃貸事務所であるが、現在の10室（満室）からさらに10倍ぐらいに大幅に拡充してはどうか。同ビルには日本のベンチャー企業も多く入居していることから、相乗効果で日本のシリコンバレーに十分なりうる。IT企業の集積する渋谷、秋葉原との競争では、成田の優位性を生かし外資系企業中心とすることで差別化を図ってはどうか。

第三は、外国人が地域に気軽に溶け込めるようなコミュニティづくりを急ぐべきである。外資を脅威としてとらえるのではなく、一緒にビジネスに取り組み、地域の一員として仲良く暮せる絶好の機会と認識すべきである。外国人の家族が多く住むようになれば、当然、子弟の教育環境の整備が欠かせない。千葉県にまだないインターナショナルスクールが必要なことは言うまでもない。成田国際空港があり地理的には最も国際都市である千葉は、幕張を皮切りに真の国際都市として脱皮を図るべきである。

これらの活動を通じ、外国へのアピールを強め、幕張が日本のシリコンバレーとして世界に認知されれば、幕張、ひいては千葉の発展につながるはずである。

外資系企業数の推移(本社のみ) (単位:社、人)

	1990年	1995年	2000年	2004年
千葉県	20	29	39	52
(従業員数)	(1,076)	(3,411)	(4,423)	(8,312)
東京都	2,486	2,409	2,555	2,528
神奈川県	158	211	264	282
埼玉県	22	21	29	32
全国	3,147	3,130	3,320	3,383

(出所)東洋経済新報社「外資系企業総覧」